

## 『摂南大学教育学研究』第7号発刊にあたって

「摂南大学教育学研究」編集委員会

委員長 深川 八郎

この度、『摂南大学教育学研究』(Bulletin of Educational Research of Setsunan University) 第7号が完成いたしましたので、発刊いたします。

本研究会は、摂南大学教務部教職教室の教員及び教職課程を履修した卒業生を中心に、教育の理論および実践的交流誌として発刊するもので、教職教室の研究事業として七年の歳月を刻むこととなります。

ところで、今私達の社会は戦後かつてない大きな変革期の渦中にあります。それは我が国だけでなく国際的規模で進行しつつあります。足もとである本学においても、教職教室は本年度外国語学部から教務部に所属移管されました。大きな変革の波は今後も日常の様々な場面まで及ぶものと考えられます。そのような状況の中で変革は少なからず“痛み”を伴います。痛みのない改革は表面的な改革に終始してしまう可能性もあります。また改革は必ず“不安や怯え”も伴います。

人間は本来「共同体」を形成しその共同体の中で様々な共同幻想を生み出して来ました。理念だけではなく、モラルやマナーもその中に含まれます。しかしその解体は新たな共同幻想を生む可能性もありますが、現代という時代は個への解体に向かっているようです。このことのリスクは人間本来の「共同性」までも解体してしまうことの可能性です。その結果が今までにない事件や事故の多発化とも密接につながっているようです。さらに、このことの拡大化は教育の根幹まで危機に晒してしまう恐れがあります。

変革期に生きざるを得ない私達の責務は人間の「共同性」を取り戻す闘いとも言えるでしょう。そういった視点から将来の教員養成をそして本学教職課程OB・OG会とのさらなる交流を見据え、本学の発展と共に教職教室の教育内容が益々充実していくための一助となるために、この『摂南大学教育学研究』が役立つことを願っています。

2011年1月21日

『摂南大学教育学研究』の発行および執筆等に関する申し合わせ

2004 年 12 月 24 日制定

第 1 条 摂南大学教職教室（以下「本教室」という）は、研究および教室活動の成果の発表を目的として、本教室の機関誌として『摂南大学教育学研究』（英文名 **Bulletin of Educational Research of Setsunan University**）（以下「本年報」という）を発行する。

② 本年報は、原則として年 1 回発行する。ただし、必要に応じて特別号を発行することができる。

③ 発行・配布等にかかる費用は、本教室予算の一部をもってあてる。

第 2 条 編集兼発行者は、摂南大学教職教室『摂南大学教育学研究』編集委員会（以下「委員会」という）とする。

第 3 条 委員会は、本教室全専任教員により構成する。

② 委員長は、本教室主任が務める。

③ 委員会に幹事をおき、委員の互選によりこれを決定する。幹事の任期は、当分の間、これを定めない。

第 4 条 執筆者は、当分の間、次のとおりとする。

1. 本教室専任教員
2. 本教室非常勤教員
3. 本学教職課程修了者
4. 本教室専任教員を含む共同研究者
5. その他、委員が必要と認める者で、委員会の承認を得た者

② 執筆を希望する者は、執筆の意思を事前に委員に対し明らかにしなければならない。

第 5 条 本年報に掲載する著作は、次の 4 種に区分する。

1. 研究論文 : 原著性のある研究の成果
2. 実践報告 : 教職教育、学校教育の実践について記述・解説したもので、原著性、記録性のあるもの
3. 資料・文献紹介 : 紹介者の問題関心に即して有意味な書籍、文献、資料等を紹介、解説、評価したもの
4. 特別寄稿 : 委員会が必要と認めて依頼したもの

第 6 条 本年報に掲載する著作の本文原稿（引用注、参照文献等を含む）は、横組みとし、原則として次の分量とする。

1. 論文、実践報告 : 4 0 0 字詰め原稿用紙 4 0 枚程度。（16, 000 字程度）
2. 文献・資料紹介 : 同 2 5 枚程度。（10, 000 字程度）

② 図表等を挿入する場合は、およその挿入箇所を予め指定し、これを含めて前項の分量に収めるものとする。

③ 前項の分量を著しく超えるものは、委員会の議を経て、分割掲載することがある。

第7条 本年報に掲載する著作は、原則として日本語によるものとする。

- ② 外国語により著作を掲載しようとする者は、原則として邦訳文を添付しなければならない。その場合、邦訳文を前条の分量に収めるものとする。

第8条 執筆者は、本文原稿のほかに、次のものを添付して提出するものとする。

1. 本文要約（800字以内）
2. タイトル、氏名、所属、連絡先、著作区分
3. タイトル・氏名の英語表記

- ② 原稿提出にあたっては、本文原稿のほかに前項のものを原則としてフロッピーディスクに収め、印刷物と併せて提出するものとする。

第9条 原稿提出の期限は、委員会が決定し、執筆希望者に明らかにする。

- ② 原稿の受付日は、委員会に提出された日とする。

第10条 委員会は、提出された原稿について、本年報に掲載の適否を判断するため、査読委員会を構成し、査読を依頼する。

- ② 委員会は、当分の間、査読委員会を兼ねる。

- ③ 査読委員会は、提出された原稿を査読し、掲載の適否、修正等に関する意見を委員会に報告する。

第11条 委員会は、査読委員会の報告を踏まえ、原稿の掲載の可否を決定し、また執筆者に対し補筆、修正等を求めることができる。

第12条 校正は、執筆者が行い、原則として2校までとする。

- ② 校正時における原稿の大幅な変更は、これを認めない。

第13条 執筆は原則として無償とするが、特別な印刷等の仕様を要する場合は、執筆者に実費を請求する場合がある。

第14条 本年報の配布先は、委員会が選定する。

付 則 この申し合わせは2004年12月24日から施行する。

## 編集後記

『摂南大学教育学研究』第7号を刊行することになりました。今年度は、教職教室の組織上の変化があったこと、財政厳しき折、教育・研究予算運用上、どう教室の主体性を発揮していくかという課題がありました。そのなかで、予定通り、本年報刊行の運びとなったことは、それぞれの尽力によるものであることは間違いありません。

2010年4月、聖徳短期大学（千葉）より、教職教室に吉田佐治子先生（「教育心理学」担当）が着任されましたので、編集委員に加わっていただきました。

吉田先生に執筆して頂いた掲載論文も、専任教員による「教育心理学」関係の論文掲載としては初めてになります。「絵本の読み聞かせ場面における親子のやりとり」に関する長期にわたる研究に基づいた興味ある論稿です。

また森均先生の研究論文も掲載させて頂きました。森先生は、本学元工学部電気学科の一期生で、現在、大阪府立たまたがわ高等支援学校の校長先生です。先生の論稿は、実践された「授業評価」に関する研究の成果です。

本年報は、教職教室の研究誌として、教員はもちろん、本学教職課程のOB・OGなどの研究の成果も含めて公開していくものとして創刊されました。創刊号に記したとおりです。本学教職課程に関わりのある人たちが、教育・教師・学校等に関わる「実践」と「理論」を発表して、交流するための研究年報です。

本学教職課程では、年々、教育系大学院に進学する学生も増えています。また2011年4月には、大阪府等の公立小・中学校、高等学校の新任教員として10名が教壇に立つことになっています。今後、大学院修了者の研究成果、教職に就いた卒業生の実践報告などを掲載していきたいと思います。教育学研究上の新理論や教育実践上の創意と工夫ある新しい教育実践の試みを期待しています。どうぞふるって投稿くださるようお願いいたします。

なお編集事務につきましては、教務部の古谷さんにご尽力頂きました。御礼申し上げます。

2011年1月18日

編集委員・幹事 村 田 俊 明